

| | | | | | |
|----------|-----------------------|------|----------|-------|---------|
| 授業科目 | 運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援学概論 | | | | |
| 担当者 | 境 隆弘・佐藤睦美 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 保健医療学研究科 | 学 年 | 1年 or 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

生活機能を支援する科学的根拠に基づいた論理を構築するための運動器疾患並びにスポーツ傷害に関するリハビリテーション技術、知識の涵養を目的とする。運動器疾患並びにスポーツ傷害のリハビリテーションにおけるバイオメカニクスの重要性を踏まえ、スポーツ動作について講義したうえで、疾患別の症候、リハビリテーション評価、治療について模擬症例での演習を通じて科学的根拠ある理論を構築する。

(境隆弘)

運動器疾患のリハビリテーションにおけるバイオメカニクスを基礎に疾患別の症候、評価、治療について科学的根拠ある理論を構築できる知識を涵養し、模擬症例の検討を通じて理解を深める。

スポーツ・リハビリテーションにおけるバイオメカニクスを基礎に上肢疾患の症候、評価、治療について科学的根拠ある理論を構築できる知識を涵養し、模擬症例の検討を通じて理解を深める。

(佐藤睦美)

スポーツ・リハビリテーションにおけるバイオメカニクスを基礎に下肢疾患の症候、評価、治療について科学的根拠ある理論を構築できる知識を涵養し、模擬症例の検討を通じて理解を深める。

■ 到達目標

- ・運動器疾患およびスポーツ傷害のリハビリテーションにおけるバイオメカニクスを理解する。
- ・科学的根拠ある運動器疾患およびスポーツ傷害のリハビリテーションの実践方法を理解する。
- ・運動器疾患およびスポーツ傷害のリハビリテーションを構築できる。

■ 授業計画

- 第1回 運動器疾患のリハビリテーションにおけるバイオメカニクスの重要性 (境隆弘)
- 第2回 関節運動学と運動力学 (境隆弘)
- 第3回 骨折と脱臼のリハビリテーションの解説と模擬症例検討 (境隆弘)
- 第4回 骨と関節の感染症に対するリハビリテーションの解説と模擬症例検討 (佐藤睦美)
- 第5回 脊椎・脊髄疾患、外傷に対するリハビリテーションの解説と模擬症例検討 (境隆弘)
- 第6回 股関節疾患、外傷に対するリハビリテーションの解説と模擬症例検討 (佐藤睦美)
- 第7回 頭部外傷に対するリハビリテーションの解説と模擬症例検討 (境隆弘)
- 第8回 スポーツ傷害のリハビリテーションにおけるバイオメカニクスの重要性
- 第9回 膝のスポーツ・リハビリテーション (佐藤睦美)
- 第10回 膝のスポーツ・リハビリテーションの模擬症例検討 (佐藤睦美)
- 第11回 足のスポーツ・リハビリテーション (佐藤睦美)
- 第12回 足のスポーツ・リハビリテーションの模擬症例検討 (佐藤睦美)
- 第13回 肩・肘のスポーツ・リハビリテーション (境隆弘)
- 第14回 肩・肘のスポーツ・リハビリテーションの模擬症例検討 (境隆弘)
- 第15回 まとめ (境隆弘)

■ 評価方法

- 運動器疾患リハビリテーションに関する課題レポート 50%
 スポーツ傷害リハビリテーションに関する課題レポート 50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃、臨床業務で遭遇する各疾患について、予習としては疑問点や治療計画などを持ち寄ること。復習としては、授業で得た知識を臨床業務で実践し、効果を知ること。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：「理学療法 Mook 9 スポーツ傷害の理学療法第2版」
著者名：福井勉・小柳磨毅 編
出版社：三輪書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって